

第 9 回 2019 年 2 月 13 日 (水)

第 9 回一流塾では、講師に鈴木幸一氏（㈱インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 兼 CEO）と、魚谷雅彦氏（㈱資生堂 代表取締役社長 兼 CEO）を、懇親会の特別ゲストに絹谷幸二氏（日本芸術院会員、画家（文化功労者））をお迎えしました。また懇親会には、一流塾特別顧問の福川伸次氏（(一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学総長）と一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産(株) 副社長）にもご出席頂きました。



【講師 鈴木氏】

第 1 部では、『IT と経営』と題して鈴木氏が講義を行いました。鈴木氏は冒頭、中国の企業や起業家を例に、これまでにない発想で社会を変えようというエネルギーの違いを示されました。そして、国防上の必要性から米国政府が巨額の予算を投じてインターネットを開発し、21 世紀にはこれを活用して金融・通信のプラットフォームを築き、世界の覇権を握ろうとしてきたことを説明されました。一方日本では、インターネットのビジネス活用への理解が深まらず、IIJ が目指した商用サービスの開始も計画より 3 年遅れ、グローバルスタンダードを握れなかったことを残念がると共に、日本には何かを変えようという気概が足りず、この世界で大きく出遅れてしまったと話されました。そのうえで、過去の成功体験を壊す、痛みを伴う改革が必要だと強調されました。また、時間を忘れて没頭する環境で皮膚感覚を磨かないと、グローバルに戦える IT 人材は育たないと、日本の労働慣行の変革の必要性も説きました。最後には、IoT や AI の未来についての見解を披露し、経営者としてどういう仕組みにすれば IT を活かせるかを考えることが重要であると指摘されました。塾生からは、「世界で戦ってきた起業家ならではの国家スケールでの大局観と周りの理解が得られない中で自分を信じて努力された点に感銘を受けた」、「過去を壊す勇気を持たないと戦えないということを改めて痛感した」といった感想が寄せられました。



【講師 魚谷氏】

第 2 部では、『世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニーを目指して』と題して魚谷氏が講義を行いました。魚谷氏は冒頭、資生堂の社長に就任の秘話とその際の覚悟などをご披露いただきました。そして、5 年間で 7 万人の現場の声を聞いて回った事例や具体的なブランド戦略、お客様中心の発想、マーケティングや R&D への投資強化といった施策を例に挙げながら資生堂における改革についてご紹介いただきました。講義の後半では、グローバルで勝つためには日本の良さを活かすこと、全ステークホルダーに価値創造する中長期視点での経営やピープル・ファーストなどのご自身が大切にしている経営思想をご説明いただき、人の力が成長を牽引するとして、人材育成投資へのコミットメントやボトムアップの経営改革、更には人の心を動かす Leadership などについてもご紹介いただきました。塾生からは、「現場主義で人の心を動かして、決めたことに突き進む、目指すべき本物のリーダーシップに触れることができた」、「前向きでエネルギーに溢れたプレゼンに、いくつものヒントと元気をいただいた」といった声が上がりました。

懇親会では、福川氏から乾杯のご挨拶をいただいた後、特別ゲストの絹谷氏が『色彩は人を元気にする』と題して、卓話を行いました。卓話では、冒頭、動画を用いて自身の活動や作品を紹介されました。そして、芸術の世界でも経営でも自分の分野に特化してしまったり周りが見えなくなる、広い視野を持って全体を俯瞰し、リスクマネジメントが大切だとのお考えを示されました。最後には、愛のある絵が人々に感動を与え好まれる、会社でも愛のある経営を、と締めくくられました。その後の懇親会では、各テーブルで講師と塾生との交流が続きました。

懇親会後の塾生有志による塾長を囲む放談会では、内閣府の官僚の方にお越しいただき、日本経済の現状と課題についての深夜まで熱い議論が交わされ、絆を脱いだ交流で大いに盛り上がりました。



【特別ゲスト 絹谷氏】



懇親会風景



放談会風景